

三重県訪問団によるパラオ共和国訪問（2月17日～21日）の概要

平成29年2月18日（土）

1 パラオ国際サンゴ礁センター訪問

(1) 日時

平成29年2月18日（土曜日）14時00分から15時15分まで（日本との時差は、ありません。）

(2) 場所

パラオ国際サンゴ礁センター（コロール州）

(3) 出席者

パラオ国際サンゴ礁センター

Yimnang Golbuu（イムナン・ゴルブー）CEO

田中裕之 理事 ほか、計8名

鳥羽水族館 若井嘉人 取締役副館長 ほか、計2名

三重県 石垣英一 副知事 ほか、計5名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計4名

(4) 概要

海洋生物研究所であるパラオ国際サンゴ礁センターを訪問し、同センターと鳥羽水族館の友好協力覚書調印式に出席しました。調印式の中で、若井取締役副館長から「鳥羽水族館は、1976年以降、パラオへの調査員の派遣や、パラオからの研修生の受入等を実施しパラオとの交流を行ってきた。この覚書により、サンゴ礁における海洋生態系の研究、展示、保全等に関する活動が、より一層発展するよう期待している。」旨の発言があり、イムナン CEO から「パラオ国際サンゴ礁センターは開館16年目を迎えたばかりであり、豊富な経験や知識を有し、日本トップクラスと認識している鳥羽水族館との連携は、パラオ国際サンゴ礁センターの発展に繋がり大変光栄に思う。」旨の発言がありました。

また、調印式に立ち会った石垣副知事は、「今回の連携協定により、鳥羽水族館とパラオ国際サンゴ礁センターとの協力関係が深まり、三重県とパラオとの間に、新たな民間交流がはぐくまれることを大変喜ばしく思う。」と述べました。調印式後は、JICA（国際協力機構）から派遣されている専門家から説明を受けながら、同センター内を見学しました。

※パラオ国際サンゴ礁センターは、2001年に、サンゴ礁保全のための研究及び普及活動を目的に、日本のODA（無償資金協力）、及びアメリカからの支援により設立され、研究施設のほか、水族館が併設されています。



あいさつを行う若井取締役副館長



あいさつを行うイムナン CEO



あいさつを行う石垣副知事
(写真右端は、若井取締役副館長)



覚書に署名を終えて記念撮影（写真左から田中理事、イムナン CEO、若井取締役副館長、石垣副知事）

2 クニオ・ナカムラ元大統領との夕食交流会

(1) 日時

平成 29 年 2 月 18 日（土曜日）18 時 30 分から 21 時 00 分まで

(2) 場所

パラオパシフィックリゾートホテル（コロール州）

(3) 出席者

Kuniwo Nakamura（クニオ・ナカムラ）元パラオ共和国大統領

Yutaka M. Gibbons（ユタカ・ギボンズ）大酋長

Raphael B. Ngimang（ラファエル・ギマン）大酋長

Arthur Ngiraklsong（アーサー・ニラクソン）最高裁判所長官

Aric Nakamura（アリック・ナカムラ）上院議員

ほか、パラオ共和国側 計 13 名

三重県 石垣英一 副知事 ほか、計 5 名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計 11 名

鳥羽水族館 若井嘉人 取締役副館長 ほか、計 2 名

(4) 概要

クニオ・ナカムラ元大統領主催の夕食交流会に出席し、パラオ共和国政府関係者等との交流を行いました。

クニオ・ナカムラ元大統領からは「パラオ国民を代表して三重県訪問団を歓迎申し上げます。父が伊勢市大湊出身であり、家族とともに何度も三重を訪問したことがある。私にとって三重県は、とても美しく、訪れるたびに故郷パラオを思い起こさせるような居心地の良い場所であり、今回、三重県から多くの方々をお迎えでき光栄に思う。また、県立水産高等学校の実習船が寄港するマラカル港は、40 年以上前から一家で運営しており、今年も無事に寄港されたことを大変嬉しく思う。」との発言がありました。

石垣副知事から「クニオ・ナカムラ元大統領は、まさに三重県とパラオとの友好関係の立役者であり、関係発展に向けて御尽力いただいている。訪問団を大歓迎いただいたことに心より感謝申し上げます。明日のウォーカーソンや日本フェアでは、パラオの皆さんの胸に三重という名が深く刻まれるよう PR したい。」旨を述べました。また、日沖副議長は「今回初めてパラオを訪問したが、自然の美しさや人々の温かさを感じパラオの魅力に感銘している。帰国後はパラオの魅力を伝えていきたい。」と述べました。



歓談する石垣副知事と
ナカムラ元大統領（写真右）



あいさつを行う日沖副議長（写真右）
（写真左奥はナカムラ元大統領）



ナカムラ元大統領（写真右）から記念品のストーリーボードを受け取る石垣副知事

平成 29 年 2 月 19 日 (日)

1 三重県・パラオ共和国交流ウォーカソンの開催

(1) 日時

平成 29 年 2 月 19 日 (日曜日) 6 時 00 分から 8 時 00 分まで

(2) 場所

コロール州コロール島内

(3) 三重県側参加者

三重県 石垣英一 副知事 ほか、計 5 名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計 8 名

鳥羽水族館 若井嘉人 取締役副館長 ほか、計 2 名

ほか、三重県側参加者 計 19 名

(4) 概要

三重県訪問団とパラオ国民との交流事業の一つとして、参加者の環境保護意識の向上及び健康増進に資するとともに、三重県とパラオ共和国との友好関係の深化を目的に、交流・クリーンアップ活動イベントを実施しました。パラオ国民やパラオ在住日本人等約 180 名が参加し、4 つのコースに分かれて道路や海岸のごみ拾いを行いながらウォーキングをし、参加者には記念品として友好提携 20 周年をアピールするオリジナル T シャツを配布しました。ウォーカソン終了後は、水分補給等を行いながら、参加者同士で交流を深めました。



開始にあたってあいさつを行う石垣副知事



ごみを拾いながらウォーキングを行う参加者



チェック地点でチェックを受ける日沖副議長



ゴール後の参加者との交流
(写真中央奥は石垣副知事)

2 在パラオ日本国大使館主催「第7回日本フェア」への参加

(1) 日時

平成29年2月19日（日曜日）13時30分から17時00分まで

(2) 場所

ガラマヨン文化センター（コロール州）

(3) 出席者

三重県 石垣英一 副知事 ほか、計5名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計11名

三重県立水産高等学校 生徒27名、指導教官3名、計30名

鳥羽水族館 若井嘉人 取締役副館長 ほか、計2名

(4) 概要

在パラオ日本国大使館が例年主催している日本文化を発信するイベント「日本フェア」に、三重県から初めて参加しパラオ国民やパラオ在住日本人に向けて三重県のPRを行いました。

ステージ公演では、三重県による観光・食・文化に関するプレゼンテーション、県立水産高等学校による学校紹介を行い、また鳥羽水族館による生きもの紹介、パラオ日本語補習学校による太鼓演奏及びソーラン節披露、パラオ柔道連盟による柔道実演、福島県いわき市関連団体によるプレゼンテーションが行われました。

また、体験・展示ブースでは、三重県による忍者衣装体験及び手裏剣投げ体験のほか、県立水産高等学校による学校紹介パネル及び航海実習用具等の展示を行い、また鳥羽水族館による館内紹介及びパラオとの交流に関するパネル展示等が行われ、子供から大人まで540名の来場があり大盛況でした。



三重県を紹介するプレゼンテーションの様子



県立水産高等学校生徒による学校紹介の様子



手裏剣投げ体験コーナーの様子



県立水産高等学校 PR ブース
(ロープワーク説明)の様子



鳥羽水族館 PR ブースの様子

平成 29 年 2 月 20 日（月）

1 在パラオ日本国大使館への表敬訪問

(1) 日時

平成 29 年 2 月 20 日（月曜日）8 時 50 分から 10 時 00 分まで

(2) 場所

在パラオ日本国大使館（コロール州）

(3) 参加者

在パラオ日本国大使館 山田俊之 特命全権大使 ほか、計 4 名

国際協力機構（JICA）パラオ支所 宮田伸昭 支所長

三重県 石垣英一 副知事 ほか、計 5 名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計 11 名

鳥羽水族館 若井嘉人 取締役副館長 ほか、計 2 名

(4) 概要

在パラオ日本国大使館を訪問し、山田大使及び宮田支所長と、パラオ情勢等に係る情報収集を行うとともに、今後の三重県とパラオ共和国との関係発展に向けた意見交換を行いました。

石垣副知事から「昨日の日本フェアでは、パラオの多くの方々に向けて三重県を PR することができ、ご支援に感謝申し上げます。三重県では、県立水産高等学校による学校間交流の継続のほか、国際環境技術移転センター（ICETT）等と連携した環境保全事業の実施を検討しており、在パラオ日本国大使館及び JICA の皆様には友好関係発展に引き続きご支援賜りたい。」と述べました。

山田大使からは「三重県とクニオ・ナカムラ元大統領とのご縁のように、日本とパラオの間には多くの人々の繋がりがある。パラオへの国際協力においては、資金面の援助だけでなく、技術や実務の伝承が大変重要であると感じる。」との発言があり、また宮田支所長からは「環境保全分野においては、パラオではごみ分別が根付いておらず、リデュース・リユース・リサイクルが浸透した循環型社会の形成推進が重要である。」との発言がありました。



意見交換の様子（写真左から宮田支所長、山田大使、大使館職員、石垣副知事、日沖副議長）



意見交換の様子

2 パラオ共和国政府への表敬訪問

(1) 日時

平成 29 年 2 月 20 日（月曜日）11 時 30 分から 12 時 00 分まで

(2) 場所

パラオ共和国大統領府（マルキョク州）

(3) 出席者

パラオ共和国 Tommy E. Remengesau, Jr.（トミー・エサン・レメンゲサウ・ジュニア）大統領

三重県 石垣英一 副知事 ほか、計 5 名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計 11 名

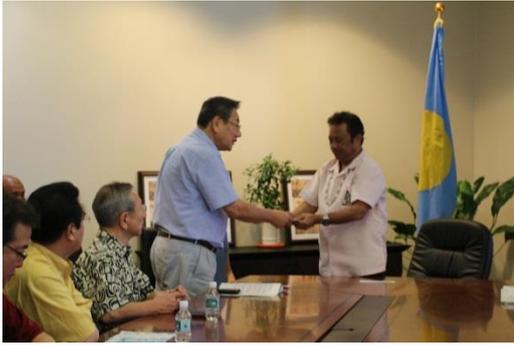
鳥羽水族館 若井嘉人 取締役副館長 ほか、計 2 名

(4) 概要

レメンゲサウ大統領を表敬訪問し、今後の三重県とパラオ共和国との交流に向けた意見交換を行いました。

石垣副知事は、大統領の来県を呼び掛ける知事親書を手渡し、「レメンゲサウ大統領には、三重県で開催した友好提携 5 周年記念式典への出席、昨年 7 月の鈴木知事との会談等、交流推進にご尽力いただいております。感謝申し上げます。本県としても、若い世代の記憶に残るような青少年交流等、友好関係を発展させていきたいと考えており、引き続きご支援、ご協力いただきたいと思います。今後來日される際には、三重県にお越しいただきたいと思います。」と述べました。また日沖副議長は「この地においては、日本に深い親しみを持っていただいていることに嬉しく思う一方で、先の大戦では多くの方々の命が失われたことに深く哀悼の意を表す。友好提携締結以来、パラオと三重県は様々な交流を行ってきたが、パラオ共和国政府をはじめとする様々な機関や個人のご助力のおかげであり、今後も両県国の絆が一層強固になることを期待している。」と述べました。

レメンゲサウ大統領から「友好関係締結 20 周年の機に、三重県訪問団にお越しいただき嬉しく思う。昨年の太平洋・島サミットでは、特に太平洋諸国とアジア諸国間の青少年交流推進の重要性が強調されていたが、パラオと三重県においては、パラオ高校と県立水産高等学校の交流が友好提携締結以来継続されており、良い事例である。クニオ・ナカムラ元大統領のルーツで生まれた友好関係を今後も続けていきたい。パラオでは観光業が主要産業であり、三重県からもたくさんの方々にお越し頂けたら嬉しい。また、私も三重県を訪問したいと思っている。」旨の発言がありました。



知事親書をレメンゲサウ大統領に
手交する石垣副知事



あいさつを行う日沖副議長（写真右奥）



意見交換の様子（写真左から石垣副知事、
レメンゲサウ大統領、日沖副議長）



大統領と訪問団との記念撮影

3 県立水産高等学校実習船「しろちどり」への訪問

(1) 日時

平成 29 年 2 月 20 日（月曜日）16 時 45 分から 17 時 15 分まで

(2) 場所

マラカル港（コロール州）

(3) 出席者

県立水産高等学校 徳田嘉美 校長

同校実習船「しろちどり」 谷水孝之 船長

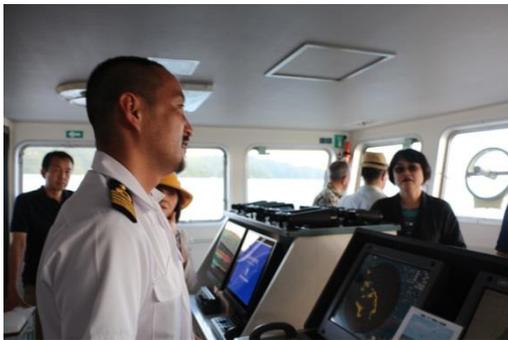
三重県 石垣英一 副知事 ほか、計 5 名

三重県議会 日沖正信 副議長 ほか、計 11 名

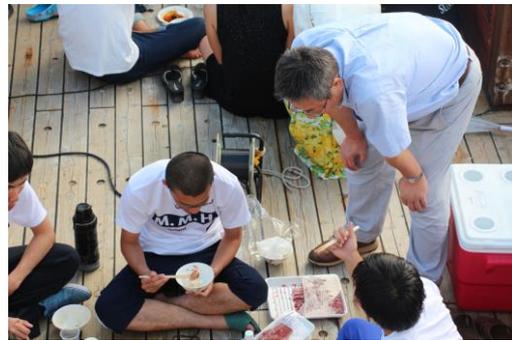
(4) 概要

県立水産高等学校では、20 年前から航海実習においてパラオ寄港を実施しており、姉妹提携校のパラオ高校との交流やダイビング実習を行っています。平成 28 年度第 5 次航海実習において、2 月 16 日から同月 21 日までパラオに寄港中の実習船「しろちどり」を訪問しました。

訪問団は、谷水船長から航海実習の概要説明を受けた後、船内を視察し、実習中の同校生徒に声を掛けながら航海実習の様子について話を伺いました。



操舵室で説明を行う谷水船長（写真左手前）



水産高校生に声をかける石垣副知事（写真右奥）